

4. 面談記録

Lilongwe

1. Ministry of Finance and Economic Planning (MFEP)

日時： 9月24日午前9時

出席者： Mr. Ambrose Mzowa, Deputy Director, MFEP
Mr. D.Y.C. Wirima, Assistant Director, MFEP

内容：

- JICA から本案件の目的、Scope、期間、Phase I との関連などを説明し、了解された。
- マラウイ側による車両と運転手の手配は困難との現状説明があり、JICA 側にて用意できるか検討することとなった。
- 事務機材・通信施設を含めた事務所の手配は MOEST と十分協議する旨要望があり、具体的な事務所準備の可能性について、MOEST と協議することとなった。

2. Department of Local Government (DLG)

日時： 9月24日午前11時

出席者： Mr. Luckie Sikwese, Deputy Director of Planning & Development, DLG
Mr. Alex E. Malembo, Chief Planning Officer

内容：

- 1998 年の Decentralization Policy の採択により、同年新 Local Government Act が承認され、その実施推進機関として Department Of Local Government が設立された。その後、2001-2005 年の中期実施計画が策定され、現在ドナーの協力のもと、Local Government への様々な機能の Devolution が進行中である。
- Decentralization process における政府のサポートは 1) National Local Government Finance Committee を経由して直接 District Assembly にいく予算と 2) 各省庁経由でいく予算、の 2 種類がある。サラリーは前者に含まれる。教育セクターの場合は後者の比率は 40% 程度となる計画である。
- 教育セクターの Devolved Functions (すなわち District Assembly が決める Functions) は、教員給与、教員採用、教材配布・在庫管理、人事記録管理、教育センサス更新、EMIS 維持管理、教育予算作成、DEP 開発など多岐にわたる。
- District Assembly は 1) local revenue, 2) ceded revenue, 3) government grant の 3 つの予算源を持つ。予算計画は初年度(2001 年度)は教育省がすべて作成し、2 年目は教育省と District Assemblies で共同作成し、3 年目以降は District Assemblies のみで作成する計画である。
- 現在全 District の District Development Plan (DDP) が作成され、Web でも閲覧できるようになっている。(www.malawi.gov.mw で Local Government をクリックし、District Assemblies をクリックする。)
- 各 DDP の総計額では教育セクターの予算配分は Road について 2 位である。ただし、これらはすべて District が決めるので、それぞれ Priority に差がある。
- 教員のサラリーは基本的に District で決められるが、教育省が最低限の給与水準をガイドラインとして設定する予定である。

3. Ministry of Education, Science, and Technology (MoEST)

日時： 9月24日午後1時45分～午後5時

出席者：

Mr. Charlie M. Gunsaru Secretary for Education, Science, and Technology

Dr. A. F. Kamlongera Deputy Director of Planning Division

Mr. Joseph Matola Director of Basic Education Division

Mr. M. S. H. Kalanda Deputy Director of Basic Education Division
Mr. S. V. Chamdimba Director of Secondary Education Division
Dr. A. H. Mvula Controller of Human Resource Management & Development
Division
Mrs. A. M. Chimzimu Director of Finance & Administration
Ms. Dorothy Matiti PEMA (?) MoEST Advisory
Ms. B. Udedi

内容：

Secretary Gunsaru への表敬訪問ののち、S/W、M/M への協議を行った。主な協議点は以下の通り。

- タイトルを変更し、“The National Implementation Program for District Education Plans” とすることについて合意
- “Demonstration Project” ではなく、“Pilot Project” を用語として用いることについて合意。（試験的実施であること、将来的な拡大を意図していることを含みとするため）
- 車両と Office Space に必要な機材は日本側が用意。Office Space は MoEST が省内に用意(中山専門家の隣の部屋になる模様)。
- 本調査で策定する National Education Development Plan の Target Year については、MoEST で協議するの上後日回答することとなった。なお、MoEST 内でも the National Education Development Plan と PIF との整合性について疑問を呈する者もあり、MoEST 内ですら要請内容についてコンセンサスがとれていないことが伺えた。
- ステアリングコミティーは前回のものを引き継ぐ形で組織する。
- カウンターパートの異動については、事前に引き継ぎ期間を十分取るなどの配慮をする。
- Pilot Project の対象県は日本側は 2 県を主張。その理由として以下の点を述べた。
 - 1) 開発調査の予算では限りがあり、DEPs の実施を全国展開するには日本からの次の支援に繋げる必要がある。
 - 2) 本パイロットプロジェクトで効果をあげないと次の支援に繋げるのが難しい。
 - 3) 確実に効果が発現する可能性が高い県に絞りリソースを集中させるべきである。
- マラウイ側としては、当方の説明に理解は示すものの、社会的・政治的理由から、2 県だけをパイロットプロジェクト県として認めるのは難しく、理由がたたないとのことであり、6 つの Division からそれぞれ 1 県を対象としてほしいとの要求が強かった。そのため、妥協案を探るべく、翌日へ持ち越しとなった。

4. Ministry of Education, Science and Technology (MOEST)

日時： 9月25日午前9時

出席者： Dr. A.F. Kamalongera, Deputy Director of Planning, MOEST

Mr. S.V. Chamdimba, Directors Secretary, MOEST

Mr. M.S.H. Kalanda, Deputy Director of Basic Education, MOEST

Mr. A.M. Mvula, Controller of Human Resource Management & Development, MOEST

Mr. Bertha Udedi, Senior Planning Officer, MOEST

Ms. Dorothy Matiti, Principal Education Methods Advisor, MOEST

内容：

- 前日の打合せに基づき、マラウイ側による車両と運転手の手配は JICA 側にて用意できるか JICA HQ にて協議することとなり、その旨 M/M に記載することとなった。また、事務機材は JICA 側にて用意できるかについても、JICAHQ にて協議することとなり、その旨 M/M に記載することとなった。さらに事務所手配については MOEST にてアレンジすることとなった。
- JICA 側より 6 districts を対象にした場合、Phase 2 の実施予算は DEPs の合計見積もり

予算の4%程度にしかならず、効果が期待できないため、2-3の Districts に集中的に投資することを提案した。その場合、様々な選択のクライテリアを考慮すると総合的には Mchinji と Mangochi が Pilot Districts として最適との提案をおこなった。

- マラウイ側は JICA 提案に対し、2-3 の District ではサンプルが少なくそれだけをもとに National Plan を作ることは不適當である、各 Division で教育環境は大きく異なりそれぞれでの Capacity Building が必要である、公平さを欠くことは政治的にも好ましくない、必要予算の小さい Components に絞って 6 Districts を対象にするほうが効果的である、ドナーの支援が少ないところにこそ JICA の協力を期待したい、などの理由により、あくまで Phase 1 と同じすべての 6 Districts での Pilot Projects の実施を主張し、物別れに終わった。
- 翌日以降の 3 Districts への現地調査ののち、再度協議することとなった。その際、いくつかの Options を JICA 側にて提示し議論することとなった。

5. Donor Meeting (DfID、USAID、MoEST)

日時： 9月25日午後2時30分～午後4時

出席者：

Ms. Chrisine Wallace	Program Manager, DfID
Ms. Vera Hau	Program Officer, DfID
Mr. Bill Mualo	Team Leader, USAID
Mr. Ramsey Sosola	Project Management Assistant, USAID
Dr. A. Kamalongera	Deputy Director of Planning Division, MoEST

内容：

- 当方より、本調査の目的、コンポーネント、本格調査のおおまかなスケジュールを説明し、Pilot Project 対象県についての MoEST との協議状況を説明。
- Pilot Project 対象県候補の一つである Mangochi へは USAID と DFID が多額の金額をコミット済 (DfID:25 million pound)。しかしながら、地方教育行政能力や学校マネジメントの向上を JICA が受け持てば、ドナー間の援助が相乗効果を発揮することが期待され、Sector Wide Approach の観点から DfID はウェルカム。日本側は MoEST と再度協議することとした。また、その際に、どのドナーがどれだけインパクトに貢献したかについては、特段区別する必要はないということで、ドナー側の認識は同様であった。
- 両ドナーとも、教育行政能力向上の重要性を指摘していた。
- USAID は今後 HIV 教育、特殊教育も行っていきたい旨発現があった。その重要性については出席者の間で同意があった。
- 本調査で策定される National District Education Development Plan は PIF や Strategy Paper (他ドナー支援の基で MoEST が作成中) と重複する意図はない。あくまで、DEP Implementation をサポートする全国レベルでの計画を作るため、PIF と DEP の間を繋ぐものである。この点を同席した MoEST の Kamlongera 氏にも説明してもらい、ドナー側の理解を得た。
- DEP の Pilot Project として具体的に何を行うか決定する上で、他ドナーの情報 (内容、スケジュール) が重要。情報提供について依頼し快諾を得た。

6. Central West Division Education Office

日時： 9月26日午前9時

出席者：

Steven K. Yonasi	Education Division Manager
------------------	----------------------------

内容：

- 教育セクターにおける Sector Devolution はまだ Brain Storming 中であり、Ministry、Division、District の役割分担は明確に決まっていない部分も多い。たとえば現在は Primary Education は基本的に District の所管であり、Primary Education Advisor (PEA) も district level の職員であるが、Secondary Education は Division が担当し、PEA のような method advisor も Division が組織するといったことも考えられる。
- DEPs の Implementation 上からんでくるのは、Division Level の Planner、District Education Manager、District Assembly Planner である。Capacity Building の対象も彼らと考えてよいということであった。
- DEPs の内容を非常に評価。各地域の現状の違いをよく反映しているとのコメントを得た。
- Central West Division での他ドナーの活動は、CRECCOM、Save the Children、DFID による、Feeding Program in Detza and Mchinji、Malawi School Support Program by Dfid 等が主なものである。
- Malawi の教育予算作成は Activity ベースでまず各 District で Primary 分及びその他が積み上げられる。その後各 Division がそれを取りまとめ、Secondary 分を追加し、MoEST に提出。Ministry はそれを Ministry of Finance に提出し、査定を受けるというシステムである。
- Sector Devolution が進めば、District Assembly が District の全セクターを取りまとめ、Ministry of Finance に直接予算要求することになる可能性が高い。
- Audit は内部監査と外部監査と両方ある。MoEST は 9 auditors と 2 assistants を、Division は 3 人のスタッフを Audit 業務にあてている。ただし、能力的には満足できるものではなく、Capacity building の必要性はある。外部監査も機能しており、最近も Ghost Teacher や Ghost School に予算があてられ、支出が消えてしまっている例が発見され、新聞にも取り上げられた。
- Community によっては校舎建設などにおける Cost Sharing も可能。labor や material の提供はよく行われている。実際 Malawi Social Action Fund (MASAF) by WB は Community のカウンターパートファンドを求めている。Community 自体の結束は一般的に高く、教育分野のみならず、共同作業が行われることは多いとのこと。

Mchinji

1. Kamuzu Primary School

日時： 9月26日午前11時20分

出席者： Benalita Kadzera, Head Mistress

Binara K. Tembo, Deputy Headmaster

Alexander Esam Mwace, Teacher

Esthery M. Kamaca, Teacher

Paul. K. Kamkiani, Teacher

R.S. Phiri, PEA

内容：

- 1964年に開校され、現在生徒数1527人、教員数43人(内Qualifiedは27人)、クラス数18(1-2年生は3クラス、3-8年生は2クラス)である。教室数は11なので、他は外で授業をおこなう。雨季には2シフトになることもある。1クラスに2人の教員が付く。授業は7:30から13:05である。
- 出席率は75%程度。1年生は150人だが8年生は85人に減少する。主な原因は経済的理由である。
- 1年生から4年生までは教科書も先生の説明も現地語(チェワ語)でおこなわれるが、

5年生からともに英語になる。それについていけない生徒が多くなる。これも Drop-out の要因となっている。

- 政府からノートや文房具の支給があるが、十分ではない。
- Secondary への進学者は 10%程度であるが、その内の多くは CDSS や私立高校である。8年生を繰り返すものも多い。
- In-service Training はほとんど無く、新しいシラバスになったときに Orientation が無いので困った。Teacher Development Center がこの学校内にあり、10校をカバーしている。PEA が教師を対象に Training をしている。Training は Management から教授法まで含んでいる。
- 教室、トイレ、黒板、教員宿舎など多くのニーズがある。School Development Committee があり、生徒の父兄と協力してレンガ、机・トイレの修理、などの活動をしている。寄付もある。
- 校舎の作りは劣悪であるが、トイレは男女別できれいに清掃していた。3人がけの机が 45程度あり、十分使用に耐えるものである。

2. PEA

日時： 9月26日午後12時

出席者： R.S. Phiri, PEA

内容：

- PEA (Mr. R.S. Phiri) は Phase 1 に参加した。DEP の作成は彼のほかに、DEM、Primary と Secondary の Head Teachers、District Assembly の Finance Director と Planning Director の 6 人がおこなった。生徒数、教員数と地位など基礎データを集計し、Drop-out や留年の比率を分析し計画を作った。
- PEA としては、教室と教員宿舎の建設のニーズがもっとも高く、次いで School Development Committee のメンバーの Training のニーズが高いと感じている。前者は Community が 25%のコストを負担し残りを政府が出す。業者が District Assembly が入札で決める。DEP のコスト見積もりは残りの 75%を示している。後者は DEM などの協力で Financial management, Personnel management, fund raising など 1週間程度の研修を考えている。なお、Committee のメンバーは 9人で地元 Community のリーダーや生徒の父兄からなっている。
- PEA の担当ゾーンでは 80%が 8年生終了時の国家試験に合格するが、進学するのは 50-60% (約 1000名) である。そのうち、一般に Secondary に入学できるのは少なく、多くは CDSS や私立へ行く。
- 2001 年の CIDA のプログラムで教科書は十分ある。ほとんどの科目で生徒一人一人に行きわたっている。一部 2人でシェアしている科目もある。
- 教員の Turn-over は年間 6%で、そんなに大きな問題ではない。
- Drop-out は女子に多く、経済的理由、両親の無理解、通学距離などによる。
- この地区のドナーの活動は、UNFPA, Save the Children, MASAF, World Vision International, CARD(教会)、UNICEF, EU がおこなっている。一部のドナーは DEP を参考にしている。なお、DEP の目標数値はこれらのドナーの活動以外に必要なものである。
- 教科書の配布は地域・学校によりその評価が異なる。これは CIDA のプログラムが全国すべての学校を対象とはしていなかったためか、何らかの理由で配布に不公平があったためと思われる。

3. Magawa Secondary School

日時： 9月26日午後2時40分

出席者： Harry Kamwaza, Headmaster

内容：

- District でもっとも古い学校で、現在生徒数 457 人、教員数 18 人（全員 Qualified）、教室数 8 である。授業は 7:30 から 15:30 である。
- 去年 100 人の女生徒が選ばれたが、女子寮が無いことや Admission Fee が払えないなどの理由で 69 人しか入学しなかった。
- この District は 2 つのクラスターからなり、12 と 9 の学校がある。一般の Secondary School は 3 校で残りは CDSS である。クラスターはいいシステムであるが、DANIDA が出て行った後は活動が止まっている。
- Fee は MK2,300/Term、PTD Fund として MK200/Year が必要。よって年間 MK7,100 (=2300x3+200)となり、これは授業料、食事、教科書、General Purpose Fund を含んだものである。なお Fee は全国一律である。しかし、この Fee が払えず Drop-out する生徒も多い。奨学金制度はない。
- 本校では去年 4 人が大学に進んだ。
- 寮が不足しているため、一部の男子学生は教室で雑魚寝している。また女子寮がないことがその就学率を大きく下げている。強盗事件が起こることもあり、寮の完備も重要な教育環境整備の一部である。図書室は机もなく、蔵書数も極めて限られている。同じ本がたくさんあり種類は極めて限られている。閲覧した形跡はあまり見られなかった。

Nkhata Bay

1. Nkhata Bay District Education Office

日時： 9月27日午前9時

出席者：

Manyongo 氏 PEA

人事担当職員

Ziba 氏 Division Senior Planner, North Division Education Office

内容：

- Nkhata Bay の Primary Education は 11 の zone それぞれに 10 から 20 の小学校がある。Secondary は 2 クラスターに 19 の Secondary School がある。そのうち 15 が Community Day Secondary School である。
- Nkhata Bay District における深刻な問題は、Primary においては机、ノート、筆記用具、教科書の不足、Secondary においては、有資格教員の不足、図書館の蔵書、教材の不足が挙げられる。
- 無資格教員は半分程度、Karonga, Kasungu の Teacher Training Center を利用し、In-Service トレーニングを行っているものの、十分ではない状況。
- UNICEF によりトイレ、校舎建設を行っている学校もあるが机が極端に不足している。また、教員住宅も劣化が激しく、メンテナンスの必要がある。UNICEF の他の Funding Source としては、World Vision、世銀の MASAF、District Development Fund が挙げられる。
- 机の調達コストは 400MK から 2,000MK まで幅広い。
- DEPs の Implementation で最も重要な役割を果たすのは District Education Manager である。Sector Devolution の進展に伴い、Division は Monitoring と Evaluation に集中し、CDSS は District 所管になる方向。
- 学校ごとの詳細な生徒数、教師数は各学校の校長および Ziba 氏が有している。
- クラスター等を利用した。In-Service Training のシステムはあっても Fund がないからできない。特に Allowance を支払う財政的余裕がないとのことであった。
- 当方からは、Donor は一時的な資金投入やシステム構築のキックオフしかできない。

いかに sustainability を図るかについて、District 側も努力してほしい旨言い置いた。

2. Kalambwe Primary School

日時： 9月27日午前10時30分

出席者：

校長

School Management Committee 会長

Ziba 氏

Division Senior Planner, North Division Education Office

内容：

- 生徒数は約 1400 人、教師数 20 人、教室数は 11、クラス数自体は 18 あり、2 shift 制の授業を行っている。
- 下の学年は机がなく、床に直に座って授業を受けている。CIDA の援助により、textbook は十分な数があり、授業前に配布し、終了後に回収するという方法で、管理を厳重に行っていた。しかし、ノートと筆記用具の不足が深刻であるとのことであった。
- School Management Committee の役割は、教師が時間通りに来て、シラバス通りに教えているかといった教師の業務管理の他、煉瓦作りによる労働提供等である。この煉瓦を用い、独自にコントラクターを雇い職員住宅を建設することもあるという。現在職員住宅に入れない教師は他で部屋を借りており、その rent は政府から支給されているとのこと。しかしながら、教師が学校近くに住んだほうが窃盗を防ぐ等の観点から望ましいとのことであった。また、親による寄付は大体年間 MK700 程であった。
- Grade 8 までのパスレートは 64/122 以下。Grade 5 で周りの Grade 4 までしかない小学校から生徒を受け入れるため、一時生徒数が増えていた。
- 中学進学数は下記の通りであり、年による差が激しかった。現在の校長は着任したばかりであり、この原因についてはよく分からないとのことであった。しかしながら、校長の initiative により、教師の業務モラル向上、手製の教材作成等を行っており、校長の影響力が強いことが伺えた。

1996	1997	1998	1999	2000	2001
1	1	1	29	13	5

- JICA が供与した出席簿は利用されていたが、attendance ratio が 30%程度と低かった。葬式で生徒が 2 週間欠席することもめずらしくなく、いかに出席率を上げるか、校長も苦慮してる様子が見えた。

3. St. Augustine Community Day Secondary School

日時： 9月27日午前11時30分

出席者：

副校長

Ziba 氏

Division Senior Planner, North Division Education Office

内容：

- 生徒数 158 人、教師数 12 人（内有資格者は 3 人）。無資格教員の内 4 人は、CIDA のサポートでドマシ教員養成学校の In-Service トレーニングを受けている。教師数は本来 9 人程で十分であるが、理数科の教師が 2 人しかいない（内有資格者は 1 人）点が問題である。なお、生徒数は当初各学年 50 人ずつ計 200 人程を予定していたが、ドロップアウトが激しいため、現在の生徒数になっているとのこと。
- 机の数が不足しており、図書館の施設も十分ではない点が最も改善を行いたい点であるとのことであった。実験室・器財等もほとんどなく、全体として、施設は非常に悪

いというわけでもないが、満足できるレベルにはほど遠いとのことであった。

- なお、本中学はまだ CDSS の遠隔教育機能を有しており、昼間の中等教育機会が十分行き届いていない点が伺えた。

4. St Maria Gorretti Primary School

日時： 9月27日午後2時30分

出席者：

教員2名

Ziba氏

Division Senior Planner, North Division Education Office

内容：

- 当初はキリスト教の一宗派によって設立された学校であったが、現在はとくに宗教色はなく、公立の小学校となっている。生徒数1346人、教師数24人（内有資格者は17人）。教室数は18あるが、机の不足が著しく、机の購入等 furniture の整備が first priority のことであった。なお、この学校では障害児向け特殊学級も有しているとのこと。
- この学校では School Management Committee のメンバーが授業を直接見ることはなく、Committee の活動には学校差が大きいことが伺えた。
- JICA 供与の出席簿は活用しているものの、出席率の計算はしている教師としていない教師がいる。Attendance Ratio は約 25/30 と高い。
- 昨年、試験の成績が悪かったことから、本年は無償で補講を行うなど、校長、教員の意識が高いことが伺えた。

5. Chinguluwe Primary School

日時： 9月27日午後3時30分

出席者：

教員1名

Ziba氏

Division Senior Planner, North Division Education Office

内容：

- 本小学校へは、UNICEF が NORAD の資金を用い一つの校舎建設とトイレの建設を、世銀が MASAF で一つの校舎と職員住宅建設を、World Vision が USAID の資金を通じ、職員住宅建設と参考著書の配布を、CIDA が教科書配布を行っていた。
- UNICEF の校舎建設においては、community が煉瓦、砂、石等の材料を提供、UNICEF が更に、セメントやドア等を提供の上、contractor への支払いを行うというスキームで community 参加型の学校建設を行っていた。
- MASAF においても community は 25% のカウンタパートファンド（材料提供でもよい）を求められ、MASAF からの資金を用いて community 自体が contractor を雇い、校舎建設等を行うということであった。
- JICA の出席簿は利用されており、出席率は男子 15/49～29/44、女子で 16/55～22/58 と女子の方が低い傾向が見られた。
- なお、World Vision から供与された参考図書は、放課後に生徒に貸し出すとのことだったが、使われている形跡は認められなかった。

Mangochi

1. Mangochi District Education Office

日時： 9月27日午前8時30分

出席者： Gossam Stephen Makita, District Education Manager

内容：

- DEP は DEM、PEA、Head Teacher of primary school、Headmaster of secondary school の 4人で作成した。多くのドナーが DEP を refer し活動計画を策定している。その

coordination は DEM がおこなっている。よって、DEP は教育分野の開発のバイブルであり、ドナーにとってはメニューとなっている。

- World Vision は 140 km 離れた遠隔地の full primary の 10 校に school block、teacher house、water supply、school feed などの協力をおこなっている。
- Save the Children は school block、トイレ、井戸、研修などをおこなっている。
- さらに MASAF、EU、Irish、CIDA が学校建設などハード面の協力をしている。
- 他に宗教関連団体の協力プロジェクトもある。
- DFID も DEP を参照しながら協力する計画である。
- 現在この地区にドナーの協力が集中しているが、もともと Mangochi は他に比べ教育セクターの開発は遅れており、今後も協力ニーズは強いのでハード・ソフトどちらの協力も歓迎する。
- JICA Phase 1 のイニシアティブで EMIS が始まり、毎年データの更新をおこなっている。これは政府方針の decentralization と合致している。
- school block の建設単価はドナーにより異なる。なぜならそれぞれ条件・standard が異なるため。一般に、1 block (2 classrooms) の単価は 25% の community の協力を含め、MK600,000 程度である。
- CIDA Project で教科書は配布されたが、3 Zones は配布されなかった。exercise books は 1 学科 1 冊配布されている。
- private secondary school は 6 校ある。他の District にも同様にある。
- 1600 人の教員がいるが、Turn-over は毎月 2-3 人である。主な原因は死亡、他 District へ移動、私立学校へ移動などである。
- DEM のオフィスには図表が貼られており、その活動が活発であることが想像できる。この District にドナーが多いのは DEM の活動能力に拠るところが大と思われる。また、マラウイ湖に面しており、リゾート環境・アメニティがあることもその一因と思われる。

2. Mangochi Secondary School

日時： 9月27日午前9時25分

出席者： Mrs. Towela Chiona, Senior teacher (Mathematics)

Mr. Richard I. Bushili, Desk Officer of Primary Education, Mangochi District Education Office

内容：

- 生徒数 486 人、教員数 14 人（内 10 人が qualified）の学校で、1 学年 2 クラスずつある。去年は 8 人が大学へ進学したが、この数字は District 内では一番。
- 女子の drop-out が高いが、原因は妊娠、経済面など。
- fee は MK2,300/Term（授業料、教科書、食費、general purpose fund が含まれる）と MK50/Year（PTA 会費）。
- 授業時間は 7:00-12:00 と 14:15-15:05 である。
- コンピュータはないので、すべてのデータをタイプしている。
- in-service training は 2000 年にあったが、その後はない。外部の lecturer を使うことは無い。
- 最終学年時の全国試験の合格率は全科目平均で 40%。もっとも低い科目は数学、次いで理科である。英語は 50% で平均より高い。
- 数学は微分・積分・行列はカリキュラムに入っていない。去年までは Additional Mathematics という科目があり、10% 程度の優秀な生徒に教えていたが、今年から廃止した。教える教員がいなくなったため。この科目は一部の secondary school で教えられているもので、大学入試には必要ない。
- 理系・文系はなく、4 年間全員同じ授業を受ける。
- 一般に公立の secondary が良く、私立の secondary は教育に質は低い。しかし、一部のミッション系 secondary は非常に良い学校がある。

- 図書室は本の種類が極めて限られており、同じ本がたくさんある。またこれらの本が使われた形跡はほとんどない。

3. St. Augustine I Primary School

日時： 9月27日午前10時

出席者： Jerry G. Kaliwo, Deputy Headmaster

Sr. Helena Mkaka, Teacher

内容：

- 生徒数 2042 人、教員数 53 人（うち 29 人が Qualified）の都市部の学校である。現在 5 人が Part-time で Teacher Training Colleges (Lilongwe, St. Josef, Cusungan) に 1994 年から行っている。Save the Children の協力で 1-2 日の In-service Training が年 3 回ほど実施されている。
- 学年別・性別の生徒数は

学年	1	2	3	4	5	6	7	8
男子	204	173	166	163	88	121	60	56
女子	130	211	179	166	94	117	50	64

- 5 年生からの生徒数が急激に減少するのは英語による授業の導入が考えられる。また、家庭の引越しによる転校も多い。都市部の学校なので女生徒の割合が高い。
- CIDA による教科書配布は十分ではなく、教科書の不足は依然問題である。教育省からは学期ごとに 1 冊の exercise book が配布される。teacher's guide の不足が深刻で授業の品質の標準化が困難となっている。
- 一般に教員の質の問題は深刻で、特に私立学校が悪く、そこからの転校生を教えるのに苦勞している。また、授業の進行を困難にしている他の原因は欠席率が高いことである。
- 表から 8 年生まで就学する生徒は 25%程度となっており、大きな問題である。経済的問題のみならず、教育環境や授業内容なども大きく起因しているようである。

4. Nansenga CDSS

日時： 9月27日午前11時

出席者： Jack M. Khabuwa, Teacher in biology

Catherine A. Mbinagoa, Teacher in English

Sheriff M. Mkwanda, Teacher in mathematics

内容：

- 3 年前に遠隔教育学校から CDSS になり、現在の学生数は 140 人で教員数は 10 人 (Qualified はいない) である。生徒の受入れ capacity は 50 人/Form で計 200 人であるが、以下の表のように drop-out が激しい。なお現在の Form4 は遠隔教育スキームの生徒である。今は完全になくなった。

学年	Form 1	Form 2	Form 3	Form 4
男子	29	8	16	35
女子	23	16	3	10

- 4 教室あるが、図書室と寮はない。
- fee は 1 年生は MK1,140、2 年生以降は年間 MK750 である。これは授業料のみである。
- 政府から MK20,000/月の補助があるが、学校運営には全く足りないのが現状である。例えば、教科書は全校で 1 学科に 10 冊程度しかなく、1 冊しかない学科もある。
- CDSS の教員の月額給与は MSCE は MK3,500、JCE は MK2,300、臨時教員は MK1,500 である。更に、housing allowance として、月額 PT4 は MK2,500、PT3 は MK6,000、PT1&2

は MK9,000 が支給される。PT は degree、経験年数などにより決められる教員のランクである。このサラリースキームは primary の教員と同じであり、一般の secondary は少し高い給料体系である。

- 教員は全員 MSCE は持っており、うち 2 人が現在 part-time で Domasi College of Education の diploma コースに通っている。
- Mathematics と Science が特に成績が悪く、Form 3 の数学の試験は 1 人しか合格していなかった。ある試験では 22 人中、受けなかった者 7 人、0 点 4 人、1-20 点 6 人、21-40 点 3 人、56 点 1 人、72 点 1 人であった。
- CDSS はすべてにおいて深刻な問題が存在している。ハード面も重要であるが、むしろ教員の質、授業内容、教科書不足など生徒が CDSS での学生生活を有意義と感じていないことが、drop-out の最大の要因と思われる。まず、教科書や teacher's guide を揃え教員も自分で勉強し、質の高い授業を提供できるようになるべきである。

5. As-Salam Boys Secondary School

日時： 9 月 27 日午後 12 時

出席者： Mr. E.A. Mohammad, Principal

内容：

- 1998 年に開校した私立学校である。1 学年の生徒受入れ capacity は 40 人ゆえ、全校では 160 人受け入れ可能であるが、20 人の drop-out があり現在の生徒数は 140 人である。教員数は 9 人（うち 6 人が degree holders）、supporting staff (driver, watchman, guardian, cooker, sweeper など) は 15 人である。
- fee は MK1,500/term で年間 MK4,500 となり、これで授業料、教科書、食事、寮などすべて含まれる。なお、本校にはブランタイアにある African Development Foundation (ADF) から MK3,000/term/student の補助が出ている。ADF はモスリム系の教育基金。なお、ADF の関連する学校は他に 2 校があり、更に 3 校を現在建設中である。
- カリキュラムは公立と同じである。今年初めて卒業生が出たが、pass rate は 79%、2 人が大学に進学した。
- 学生の選抜はインタビューと英語・数学の筆記試験によりおこなわれ、200 人程度の応募者の中から 40 人を選ぶ。モスリムが条件ではないが、今は全員モスリムの生徒である。
- ADF 傘下の学校がクラスターを形成し、Zomba で workshop 形式の in-service training を毎年実施している。
- 主要スタッフ 21 人 (supporting staff 含む) の月給の合計は MK190,000/month である。平均 MK9,000 であるので、公立学校の教員より 2-3 割高いと思われる。
- 校長室に多くの図表がきれいに貼られており、マネジメントの良さが感じられる。校舎、職員室、実験室、教室、寮などすべて整理整頓がおこなわれている。新しいということもあるが、top management が組織全体の運営を充実させることが出来る例である。合格率も高く、授業の質も良いと思われる。

Dedza

1. Dedza District Education Office

日時： 10 月 2 日午前 10 時

出席者： Doris Chitedze, Acting District Education Manager
Nelson P.C. Mtchini Coordinating PEA

内容：

- Secondary の教員の育成は 1) MSCE 取得者を採用、2) 2 週間の Orientation、3) temporary teacher として現場研修、4) 教育省 Education Teacher Development Center で試験、5) TTC で座学と実習、6) TTC から Diploma 取得し qualified teacher として正式採用、

である。

- DEP は DEM、Coordinating PEA、DA のプランニングディレクターで作成した。
- プライオリティは 1) 学校・教室建設による accessibility の改善、2) 教科書、teacher's guide、3) 教員研修、4) qualified teacher の採用、の順である。
- 全学校に School Development Committee はあるが、PTA は一部にあるのみ。

2. Dedza Secondary School

日時： 10月2日午前11時30分

出席者： Kalirani Chunga, Deputy Headmaster

内容：

- 全寮制の男子校で、1年生、2年生、3年生、4年生の在籍数は 78、120、126、145 である。現在の 1 年生が少ないのは食料危機のため。
- 教員は 18 人で全員 qualified。この 1 年間で 3 人が他の公立 secondary へ転校し、1 人が企業に就職した。企業の給料は 2-3 倍。今のところ、私立 secondary への転職はない。
- 1 授業は 40 分で教員は 1 週間に平均 33 授業おこなう。学生は 1 週間に 45 の授業を受ける。授業時間は 7:30 から 10:10、30 分のブレイクを挟み、12:00 までが午前の授業。昼休みが 1.5 時間あり、13:30 から 15:30 までが午後の授業となっている。
- 本校には technical courses があり、Technical Drawing、Wood Processing、Metal Works、French がある。このようなコースがあるのはこの District では本校を含め 2 校のみ。全国で 11 校ある。
- 教科書が最大の問題で、教科書一学生数比は教科により異なるが 3 から 14 である。教科書の値段は平均 MK1,000 で購入する予算がない。
- 教員研修は学内ではおこなわれているが、クラスターではない。予算が無くできない。
- 卒業生のうち去年は 7 人が大学に進学した。企業に就職するケースはほとんど無く、多くは家族のもとに戻っている。
- alumni association はない。fund raising は不可能。School Development Committee はあるが、機能していない。父兄は遠くに住んでいるので来られない。去年の入学者のうち Dedza 出身者は 2 名のみ。
- fee は学期ごとに MK500 (tuition)、MK1500(boarding)、MK50 (general purpose fund)、さらに textbook revolving fund として MK250 を集めている。
- Form 1 & 2 の教室には机がない。木工の授業で教員用のベットを作っていた。
- 寮には 240 のマットしかなく、他はマットなしで寝ている。

Zomba

1. Domasi College of Education

日時： 10月3日午前8時40分

出席者： Sister A. Kananji, Head Teacher

青木 JICA 短期専門家

内容：

- Domasi は教育省の付属機関という位置づけなので、マラウイ大学のような autonomy はない。
- Domasi は secondary の教員養成が目的の college で Diploma を出している。他に、マラウイ大学教育学部とムズズ大学があり、Bachelor を出している。
- Domasi では 3 つのプロセスで Diploma を所得し、secondary の qualified の教員になることができる。secondary 卒業後、1) Domasi で 3 年コースを終える、2) 2 年の TTC を終了後、2 年以上の教員経験を積み、Domasi の 3 年コースを終える、3) CIDA の SSTEP で 2 年の TTC を終了後、教員の経験のあと CIDA の試験に合格し、3 年の part-time

コース（遠隔教育のようなもの）を終える、という3つのプロセスである。

- Domasi の卒業生の一部は民間企業に就職するものもいる。現在 8,000 人の secondary の教員が不足している。それに対し、Domasi の capacity は 180 人である。実際の卒業生数は 1999 年 157 人、2000 年 161 人、2001 年 125 人である。
- 現在の学生数は1年から3年の合計で512人である。Humanities が 285 人に対し、Science が 150 人と少ない。数学を pass するものが少ないためと教員不足のため。Faculty of Science の入学試験は英語 (communication)、数学 (numerical skill)、論理 (logical skill) である。応募者は 3,000 人で、書類審査で 500 人に絞り、入学試験で最終合格者を決める。
- 教員不足が深刻で、1 年間に 8 人の教員が大学の教員で引き抜かれた。
- 授業料は MK2100 である。マラウイ大学は MK25000 で大きく異なる。

2. Malosa Secondary School

日時： 10月3日午前10時30分

出席者： George D. Chithila, Headmaster

内容：

- 1928年設立の伝統のある共学全寮制の National Conventional Secondary School である。Zomba Rural District に属する。
- 学生数は 416 人で、各 Form に 3 クラスあり計 12 クラスある。教員は 22 人で全員 qualified。さらに JICA -JOCV 1 名と 6 人の教員実習生がいる。staff house は 24 あるので足りている。non-teaching staff は 39 人。

	F1	F2	F3	F4	計
Boy	56	54	57	62	229
Girl	50	46	47	44	187
計	106	100	104	106	416

- school leaver で欠員がでたら、教育省が CDSS などから補充するが、レベルが異なるので負担になっている。drop-out の主な要因は経済的理由。
- 30 人の学生が 5 つの団体から奨学金を受けている。その promotion もしている。
- 父兄の負担は MK3,350/term (boarding 2,500, tuition 500, GPF 100, TF 250)。給料と utility は教育省の負担、その他の operation コストはこの中から賄う。
- 毎年 10-20 人が大学に行く。
- 教科書の不足が深刻。

3. Zomba Urban District Education Office

日時： 10月3日午後2時10分

出席者： Joseph Kumalavi, Acting DEM

Steve Tambala, Coordinating PEA

内容：

- Municipality of Zomba が Zomba Urban DEO の監督範囲である。
- DEP 作成の working group は DEM、Coordinating PEA、Planning Director of Municipality、researcher from Center for Education Research & Training, Malawi University の 4 人である。
- DEP で計画した school block の建設数などは database から拾い出して集計したものである。よって予算がくれば、すぐ場所は特定できる。unit cost は政府の標準をベースに算出した。
- school calendar は各地ごとの事情（農繁期や伝統行事など）があり flexible に変えられるようにしなければならない。
- 一部の private secondary schools は教育の質が悪く、モニタリングして改善を促しているが、今までに閉鎖させたケースはない。公立の capacity が限られているので、私立

の demand がある。

4. Likangala Secondary School

日時： 10月3日午後3時30分

出席者： J.J. Mmanga, Head Mistress

Jeke, Deputy Headmaster

内容：

- Zomba Urban では唯一の公立 Day Secondary School で共学である。学生数は 600 人、教員数 25 人で全員 qualified である。
- ここの特徴は Night School を開講していることで、15:30 から毎日 2 時間授業をおこなない 4 年間で終了するコースである。STD8 を終了していれば成績に関係なく入学できる。学生数は 400 人で、昼のコースの教員の半数が参加し教えている。教科書も共有している。他にモロンゴゼとマソンコラの各 secondary schools でも Night School を実施しており、需要は高い。
- 昼のコースの授業料は MK500/term であるが、Night School は MK700/term で、その収入は経費を差し引き、参加教員で分配している。学生の年齢層は同じである。
- 教員研修は division のアレンジで各学科ごとに年 1 回程度ある。参加した教員が自分の学校で他の教員に教える制度になっている。school management に関する研修もあるが、25%程度の教員しか受けていない。
- 現在はアカデミックなコースが中心だが、今後はコンピュータや会計など skill を重視し、就職に有利な学科を増やしたいが、予算がないので出来ない。St. Mary's Secondary School はコンピュータのコースをしていたが、教員が引き抜かれできなくなった。
- 学生は卒業後、就職のために 1-2 年の skill を教えている学校に通った後、職を見つけるといふケースが多いようだ。

Blantyre

1. Blantyre Urban District Education Office

日時： 10月4日午前9時30分

出席者： Julie S.B. Juma, DEM

Wesley R. Scott Chisali, SEMA, South West Education Division

内容：

- DEP は DEM、Coordinating PEA、Planning Director of District Assembly で 2 ヶ月で作成した。ニーズを把握するため、stakeholders に questionnaire を送り、回答を集計して作成した。その後、District Assembly とミーティングを開き、承認された。
- DEP 後の活動としては、教育省予算によるトイレのリハビリ、Assembly 予算による 77 人(去年は 25 人)の bursary student (secondary のみ) の実現、などがある。しかし、今年 7 月 1 日に導入予定だった decentralization が延期になり、District Assembly はその経緯を見守っている状況なので、あまり動けないのが現状である。
- この地区には 8,000 人の生徒数を抱える primary school があり、ダブルシフトを実施している学校がある。STD1-4 で実施し、7:30-10:40 と 10:40-13:40 の 2 シフトで、教員は異なる。都市部では教員は余っているくらいなので可能である。特に女性教員が 80% と多く、家族の事情があり地方には行かない。DEM が教員配置の任にあるが、遠隔地の allowance がなく、地方に行くインセンティブがないので難しい。
- また、このような大きい primary school ではほとんどが屋外での授業となっている。生徒は district 内ならどの primary school でも選べるが、通学距離の問題があり教育環境に差がある。STD5-8 は drop-out により生徒数は少なくなるので、1 シフトである。
- CIDA の教科書配布により、多くの primary には十分な教科書があるが、13 の primary

には配布されなかった。teacher's guide と合わせ、次回を期待している。

- 都市部はゾーンに3人の PEA を配置している。PEA、head teacher、sector head が教員訓練をしている。allowance なくても自分のためであるから、教員は積極的に参加するべきだし、そうさせることは DEM ができる。unqualified ほど allowance がないと動けないなどというが、そんなことはないはずである。
- private の primary は少ないが、secondary は多い。City Assembly と一緒に DEM が監督している。private secondary の質は様々で、公立より良いものから劣悪なものまである。certificate が欲しいので、親はそのような secondary にも通わせる。
- 良い private secondary の MSCE の合格率は 60%以上、Conventional Secondary で 50%前後、CDSS で 20%程度、悪い private で 10%以下と思われる。浪人して MSCE 取得する学生もいる。JCE はともに合格率は高い。

2. Ndirande LEA (Local Education Authority) School

日時： 10月4日午前10時30分

出席者： Esther Likoswe, Deputy Head Teacher

内容：

- 典型的な都市部の巨大 primary school で劣悪な教育環境である。生徒数は 7,529 人、教員数は 127 人（うち女性 109 人）、126 クラスあり、教室数は 20 のみ。教室に机はない。トイレの屋根や水道の蛇口などは盗まれてないものが多い。教科書は配布されたが、生徒に家に持って帰らせているので、徐々になくなってきている。
- ダブルシフトしている。授業中なのか、休み中なのか、判然としないくらい学校のマネージメントは最悪である。教室がなく、過密な環境では整然とした授業進行は困難とも思われる。

3. Namalimwe LEA (Local Education Authority) School

日時： 10月4日午前11時30分

出席者： F. Chitani, Head Teacher

内容：

- 都市部にある管理の行き届いたきれいな primary school である。2000 年に Multichoice というメディアの会社の協力で renovation できた。
- School Management Committee がしっかりしており、ガードマンを雇い管理しているので、盗難はない。修理代を徴収するのも Committee の仕事。
- district 内なら誰でも入学できる。今のところ過密になる状況ではない。親は教育の質より通学距離を重視するので、遠くからは来ない（多分そうではなく、寄付金などが他校と異なり、貧しい家庭の子弟は入学できないのではないかと想像する。例えば Ndirande LEA School からの距離は 2 キロ程度と思われる）。
- 校舎は 1 時以降は CDSS が使っている。本 district 内では 19 の primary schools が校舎を share している。

4. Blantyre Rural District Education Office

日時： 10月4日午後2時

出席者： John Chamba, District Education Manager

内容：

- DEP の作成は、1) 教育省のフォームに基本的統計データを書き込み送付、2) stakeholders に questionnaire を送付し詳細データを集計、3) MIM (Malawi Institute of Management) に集合し、DEM、Coordination PEA、Planning Director of DA が教育省からオリエンテーション受ける、4) そこでブレインストーミングをし、2 週間で完成させた。
- その後、DEP は DA で承認された。特に問題はなかった。
- クラスタは機能しており、Blantyre Urban と試験問題を共同で開発したりしてい

る。

- primary のニーズは school blocks の建設である。教員の training は今もしている。secondary は CDSS の校舎建設と教科書である。

5. Matindi CDSS

日時： 10月4日午後3時10分

出席者： Young L.P.M. Chisale, Headmaster

内容：

- 各 Form 40人が capacity で現在 day students は150人いる。さらに night school を開講しており、去年から始めたので今は1-2年生しかいないが計50人が学んでいる。night school は14:30から17:00まで。共に4年間のコースである。
- 去年の MSCE の合格者数は3人。
- 教員は18人いるが、全員 primary の教員である。
- 教室は2つあり、1クラスは屋外授業、1クラスは近くの教会で授業を受けている。教室はトタン屋根を DANIDA が提供し、他は community が協力した。community は必ずしも学生の親というわけではない。近くに secondary school がほしいということが motivation になっている。
- 教科書が不足しているが、教室の建設が最優先課題である。school block の建設費は brick を含み MK650,000 である。

Mulanje

1. Shire Highlands Education Division

日時： 10月7日午前10時10分

出席者： Ron Kamwendo, Division Education Manager

内容：

- 教員の評価は基本的には採用時しかないのが現状である。primary は MSCE を取得していれば自動的に教員になれる。JCE を取得していれば自分で勉強することにより MSCE を取得し upgrade できる。
- secondary はマラウイ大学で Diploma of Education を取得するか、ドマン教員養成カレッジで Diploma を取れば教員になれる。今は教員が大幅に不足しているので、Diploma を持っていれば全員採用される。
- 成果に基づいた教員評価は限られているが、顕著な成果を上げた教員に対し、教育省内の Teaching Service Committee がインタビューにより教員評価し、昇進・昇給をすることがある。
- データによる教員評価の制度はなく、学歴と経験年数で給与が決まっているのが現状で教員の motivation を維持するのが難しい。
- 教育の質を上げるには top management が重要である。

2. Muranje District Education Office

日時： 10月7日午前10時40分

出席者： Henry Gwede, Muranje District Education Manager

内容：

- DEP は DEM, Coordinating PEA, Director of Planning & Development of District Assembly の3人で作成した。school block の建設コストなどは教育省の単価を用いて計算した。
- National Conventional Secondary School 以外は DEO で生徒の secondary の合格と配置先を決める。成績と地理的条件で決まる。教員の採用と配置も DEM で決める。
- Phase 2 でパイロット対象校や研修参加教員は、community participation, インフラ整備状況、成果などにより DEM が決める。

3. Njedza Primary School

日時： 10月7日午前11時20分

出席者：Edward Khoropa, Headmaster

内容：

- 生徒数は以下ようになっており8年生が少ない。これは7年生の最後に学内で試験をし、8年生になる学力の無い生徒を留年させるため。そのため、PSLC (Primary School Leaving Certificate) の合格率が高い。去年は143人中142人が合格した。内80人がsecondaryに行けた。そのうち14人はConventional Secondary Schoolである。

	STD 1	STD 2	STD 3	STD 4	STD 5	STF 6	STD 7	STD 8	計
Boys	169	134	188	124	104	108	105	78	1,010
Girls	175	148	128	119	116	113	107	65	972

- 32クラスあり23教室ある。よって9クラスは野外教室となる。
- secondaryは1) National Conventional Secondary School、2) District Conventional Secondary School、3) Day Secondary School、4) CDSSに分類できる。1)は100%boarding、2)はほとんどboarding、3)と4)はほとんどboardingなしである。1)は教育省が配置先を成績と地理的条件で決める。それ以外はDEOで決める。一般にこの順番で評価が高く、成績優秀者がこの順で割り振られる。しかし、もし生徒が近くのsecondaryに行きたいのなら、下のクラスへの変更は可能であるが、そのようなケースはほとんどない。
- PSLCは英語、数学、総合理科は必修で、さらに社会、チェワ語のどちらかを選択し、計4教科を受けることになっている。
- この学校はPSLCの合格率が高く、9キロ離れたところから毎日通学している生徒もいる。いい学校で勉強したいため。通常の授業と別に、8年生に対し受験用に早朝1時間、放課後2時間の特別授業を毎日無料でしている。よって週15時間である。そのため評判がよくcommunityの協力も得られやすい。質の悪い教員はcommunityからの圧力で追い出されることもあるので、これが教員評価の一部となっているともいえる。
- TTCでのin-service trainingは機能している。allowanceがなくても参加している。

Thyolo

1. Luchenza Secondary School

日時： 10月7日午後1時30分

出席者：I. T. S. Lungrave (Deputy Headmaster)

内容：

- NationalレベルのConventional Secondary Schoolで、1学年120人のcapacityあるが、1年生の25%は授業料の問題でdrop-outする。2年生以降はあまりない。boardingなどすべて含めて年間MK6,805が授業料である。
- drop-outによる空席は教育省が他校から転向させて補充することになっており、CDSSなどから転校してくることもある。
- drop-outの対策として、ライオンズクラブがbursary制度を実施している。以前は40人が受けていたが、今は20人で、来年は7人になる。予算が厳しく、新規は打ち切りとのこと。
- MSCEの合格率は40%。特別授業はしていない。
- 去年学生のストライキが6週間あった。食事改善、寮の自由化などの要求によるスト

ライキ。今年は学内に野菜畑を作り、食料の自主調達を始めたので、食事改善ができるので、ストライキはなくなると思う。野菜畑には浅井戸があり、農業省の協力とうもろこしや白菜を作っている。2人雇ったが、学生も手伝っている。

- School Management Committee はあるが機能していない。meeting もない。父兄は遠方にいるので集まりにくい。

2. Miyomze CDSS

日時： 10月7日午後3時

出席者：G. Y. R. Valani (Head Teacher)

内容：

- MSCE の合格者は 35 人中 3 人。
- MASAF により 2 教室と 2 つの井戸が建設された。現在さらに 2 教室建設中。
- 図書館・ラボなどはない。
- primary school に隣接して建てられた典型的な CDSS である。

3. Mpinji L.E.A. Primary School と TDC

日時： 10月7日午後3時45分

出席者：D.R. Kachokol (Head Teacher) など数人

内容：

- Phase 1 で実施された各学校レベルのデータが TDC にきれいに保存されていた。生徒名簿や毎日の出欠表、それらをベースにした分析データも整理させている。今年は教育省予算で同じフォーマットを作り、各学校に配布し、毎日記入させている。非常に役立つとのこと。今後も続けていく計画である。
- しかし、教員の出欠などに関するデータはなく、教員のパフォーマンスを評価できるデータは含まれていない。

4. Namingomba CDSS

日時： 10月7日午後4時30分

出席者：Jannet J. Namonawe (Deputy Headmaster)

内容：

- tea estate 内にあり、primary に隣接している 3 年前に開校した CDSS。開校にあたって estate が土地と校舎を提供した。primary も同じ。
- 主に生徒は estate の労働者であるが、estate 外からも来ている。現在の在校生は 3 年生までしかいないが、150 人程度。うち女子は 32 人。女子の drop-out が多い。
- estate が 10 人の bursary を提供している。卒業生は estate で働く必要は無い。
- 教科書は 40 人のクラスに 5 冊程度。
- Deputy Headmaster はもともと primary の教員だったが、教育省の予算でドマシで 3 年間の Diploma を終え、本校に配属された。10 人の教員がいるが、qualified は 2 人。
- Night School を今年からはじめ、現在 1 年生が 15 人いる。4 年間のコースで Day School と同じ先生が教えている。

5. Bvumbwe CDSS

日時： 10月7日午後5時30分

出席者：片山 (JOCV 数学・物理化学教師)

内容：

- 1 年生の入学者は 100 人であるが、経済的理由で 1 年後には 60-70 人程度に減少する。その後、2 年生終了時の JCE に落ちればさらにやめていくので、最終的には 40-50 人程度になる。JCE の合格率は 75%。
- 教員は 18 人いるが、qualified は Head のみ。現在 5 人の教員が CIDA の援助でドマシで Diploma を part-time で受けている。これは学期間のブレイク時に年間 3 回ドマシ

で授業を受けるコースである。ドマシからもモニタリングに来ている。

- MSCE の合格者は今年は 16 人。去年は 13 人で、それ以前はほとんどいなかった。
- Bvumbwe 地区には Mountain View Secondary School (公立) があり、その MSCE 合格者は 19 人だったので、本校と同レベルである。本校は CDSS のなかでは非常に成績はよい。Bvumbwe 地区には私立の secondary が 3 校あり、これらの学校間での転校生は結構多いようである。
- 教科書は 1 学科 10 冊程度しかなく、教員が 1 冊所持し、学生は図書館で利用するという制度になっている。よって授業中は先生しか教科書を持っていない。
- 教員は授業は結構上手であるが、休講が多い。学校には来ているが、単にサボっているだけである。校長は授業をするように言っているが、上手く機能していない。週 3 回のうち、1 回授業をするという教員もあり、カリキュラムをカバーできない場合が多い。よって、自習時間が多くなる。
- Night School もあり、Day School と同程度の学生が在籍している。その fee はそのまま教員のものとなるので、Night School に熱心な教員も多い。Night School の学生は JCE は Day School と同じ程度合格するが、MSCE の合格者はいない。
- Form 2 と 4 を対象に特別受験用コースを実施している。ブレイク期間の 3 週間のなかで 2 週間のコースをしており、fee は 1 人あたり MK100 である。これも直接収入となるので、教員は熱心である。
- top management の強化と教員の motivation を高める制度が導入されれば、教育の質は向上する。

Nsanje

1. Malindi Junior Primary School

日時： 10 月 8 日午前 11 時 45 分

出席者： B.M. Useni (Deputy Head Teacher)

Paul Rambilu, Human resource management officer, Nsanje DEO

内容：

- 1998 年に設立された STD1-6 までの Junior Primary School で、村に立地する典型的な学校である。教室は藁葺き屋根で壁はない。机・いすはなく、石や地面に座って授業を受ける。雨が降ると授業が全くできない。教室は community がレンガ・柱・労働・資金を提供してきた。
- STD7-8 年生は 2 キロ離れた full primary school に入る。
- 生徒数は 155 人で、うち女子は 86 人。5 人の教員がおり、4 人は qualified。drop-out は多く、男子は農業関係の仕事のため、女子は結婚のため、などの理由による。
- 2 年前に school block を建設する proposal を MASAF に出したが、実行されていない。雨季のことを考えると、早く 2 blocks (4 教室) を建設したい。
- CIDA による教科書の供給はあったが、全く不足している。
- 教員は 2-3 年でローテーションするのが一般的。
- Phase 1 の出欠表は今もしており、出席率は 75%程度である。
- しかし、現在使っているものを見せてくれと言ったら、他の教員の家に保管しているとのことで、毎日きちんと出席をとっているとは思えなかった。また、教員は 1 人しかおらず、他の 4 人は病気や自宅で授業の準備をしているとのことで、学校のマネージメントが機能しているようではなかった。生徒数も 30 人程度しかおらず、STD1-2 年生の授業が終わったとはいえ、出席率が 75%とは思えない状況であった。

2. School Development Committee of Malindi Junior Primary School

日時： 10 月 8 日午後 12 時 15 分

出席者： Peter Thomu, Chairman of Committee

Thitambe Chinkulu, Treasurer of Committee
 Nice Kanjunjunju, Member of Committee
 B.M. Useni (Deputy Head Teacher)
 Paul Rambilu, Human resource management officer, Nsanje DEO

内容：

- 9人のメンバーが父兄から選挙で選ばれている。全員父兄である。
- 主な活動は校舎の維持管理、教員のモニタリングである。前者のために、MK300の寄付を集めた。後者は教室で授業をモニタリングすることもある。教え方の悪い教員や欠席の多い教員は DEM へ報告する。今までに問題のある教員はいなかった。drop-out や欠席の多い生徒の親を訪問し、通学させるように説得することもある。
- 多くの親にとって教育のプライオリティは高い。できれば secondary に行かせたい。実際この村からも secondary に行っている子供もいる。secondary の卒業後、村に帰ってきてても、MSCE を持っていれば、いつかは教員・警察官・兵士・政府・企業に雇われる機会があるし、ほとんどは 2-3 年後には職を見つけている。たとえ JCE でもその可能性はある。primary だけだと temporary job にしかつけない。secondary であれば、CDSS でもいいと思っている。
- community による教員のモニタリングと DEM への feedback system があることは興味深い。観察した現状に満足しているようで、community の意識と学校への期待のレベルが一般とは異なるようである。

3. Nsanje Secondary School

日時： 10月8日午後2時

出席者： L.K.J. Malamba, Deputy Headmaster

内容：

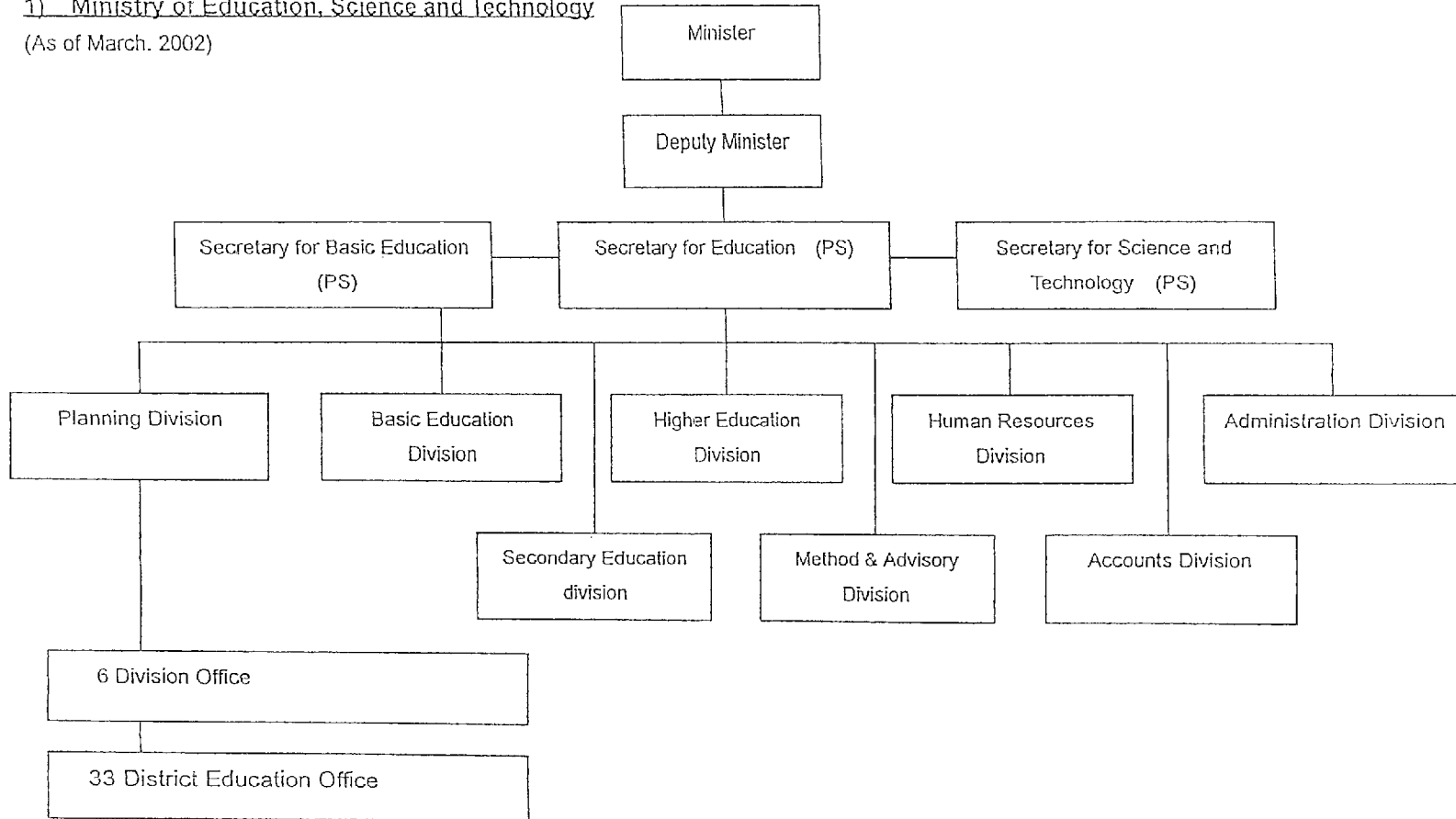
- 共学・全寮制の National Conventional Secondary School で、8 クラスある。教員は 14 人で、うち 8 人が qualified。過去の JCE と MSCE の合格者数は下表の通り。今年は 2 名が大学進学した。

	JCE	JCE	MSCE	MSCE
	Boys	Girls	Boys	Girls
1998	158	n.a.	55	n.a.
1999	121	24	33	n.a.
2000	103	23	92	n.a.
2001	80	23	68	5

- Phase 1 で始めた学生の出欠表は今も継続している。教員の出欠棒は学内でつけている。
- Night School があり、1年から4年の合計学生数は 60-80 人程度。毎年数人が MSCE に合格している。fee は教員の給料に追加される。半数の教員が参加している。Night School は district 内では本校だけ。
- 受験用の特別コースを実施することはない。
- School Development Committee は活発で、MASAF の協力も得て、現在 school hall を建設中。10人の Committee Executives がおり、2週間おきに打合せしている。学生の父兄から MK150 を毎年徴収しており、そこから allowance ができるので活発な活動が可能となっている。
- 教員が自分の得意でない分野は教えないということはよくある。クラスターで去年まで相互に教えあうという活動をしていたが、今年は予算がなくしていない。
- 教員の授業が悪いと学生や父兄が form master 経由で Headmaster に文句がくることがある。そのときは教員を呼んで注意し、改善命令を出している。今までそれで辞めさせた例はない。

- 校庭で野菜を作ることは以前していたが、盗難などがあり上手く運営できず止めた。
- allowance がないと教員訓練ができない、出欠表をすぐ出せない、MSCE 合格者率もすぐ言えない、教室の電気はすべてつけっぱなし、整理整頓ができていない、などマネジメントの問題の大きい学校である。生徒会長をしている学生に話を聞いてみたが、やはり教員の欠勤が多く問題とのことであった。

1) Ministry of Education, Science and Technology
(As of March, 2002)



入手資料一覽				
No.	Title	Issued by	Year	Obtained from
1	Education Baise Statistics, Malawi 1999	MEST	1999	Mr. Nakayama
2	Development Education Sector Expenditure (Answer of	MEST	2002	MEST via Mr. Nakayama
3	Review of the Decentralization Process in Malawi	A Joint Review Team of Government and Donors	2001	Department of Local Government
4	Decentralization Process in Malawi: Progress Report Beyond the August 2001 Donor Round Table Conference - up to August 2002	Department of Local Government	2002	Department of Local Government
5	Summary of District Development Plans 2002 - 2005	Department of Local Government	2002	Department of Local Government
6	Mchinji District Development Plan 2002 - 2005	Mchinji District Assembly	2002	Department of Local Government
7	Education Baise Statistics, Malawi 2000	MEST	2000	MEST
8	DFID: Education Sector Support Programme (brochure)	DFID		DFID
9	DFID: Education Sector Support Programme	DFID		DFID
10	USAID: Education Sector Strategic Objective	USAID		USAID
11	Summative Evaluation of USAID's Malawi, GABLE	USAID	2002	USAID
12	Domasi College of Education, Prospectus	Domasi College of Education	2000	Domasi College of Education
13	2002 Intake (summary) Semester I	Domasi College of Education	2002	Domasi College of Education
14	Ntchisi District Development Plan 2002 - 2005	Ntchisi District Assembly	2002	Department of Local Government
15	Nsanje District Development Plan 2002 - 2005	Nsanje District Assembly	2002	Department of Local Government
16	Thyolo District Development Plan 2002 - 2005	Thyolo District Assembly	2002	Department of Local Government
17	Mulanje District Education Plan 2002 - 2005	Mulanje District Education Office	2002	MEST
18	National Strategy for Community Participation in Primary School Management	MEST	2001	MEST

7. 事前評価表

事業事前評価表	
2002年11月14日 社会開発調査部第一課	
1. 対象事業名	マラウイ国全国地方教育支援計画策定調査
2. 我が国が援助することの必要性・妥当性	<p>(1) 現状及び問題点</p> <p>マラウイ国政府は、BHNである初等教育の就学率を向上するために、1994年に初等教育（1-8年）の無償化を実施した。これによって、無償化以前の1990年には68%だった初等教育粗就学率が1996年には134%となり、就学者数は1996年までの2年間で1.5倍に増加した。しかし、初等教育の就学者数の増加に施設や教員の数が追いつかず、初等教育の中途退学率・落第率の悪化といった教育の質の低下が起こっている。また、初等教育の就学者の増大にとまらぬ、卒業生の中等教育への需要も高まっているが、同様に施設や教育の数が追いつかず依然として中等教育就学率は18%の低率であり、かつ無資格教員の増加を招いている。また、こうした教育の質の低下に伴い、中途退学・落第の増加や統一試験での成績低下等の問題点も指摘されている。このような状況に対し、マラウイ国政府は、教育セクターの政策と投資に関する計画（Policy Investment Framework: PIF）に基づき、初中等教育の質向上、教育行政機能の地方移管、住民参加型の教育推進を図るため、DFID、USAID、CIDA、GTZ、世界銀行等ドナーからの支援を利用しつつ、校舎建設、教科書の配布、教育の基礎データ整備、スクールマッピングの実施等の各種事業を行っている。しかしながら、支援の量は未だ十分ではなく、上記の各課題は依然として深刻な問題であり、今後とも引き続き初中等教育の質・量の改善を図っていくことが急務とされている。かかる状況に対し、当事業団においても、教育行政機能の地方移管、住民参加型の教育推進の観点から、2000年～2002年に「全国スクールマッピング・マイクロプランニング」において、全国33県の県レベルの教育計画（District Education Plans: DEPs）の策定を行った。本DEPsは教育分野における各県のニーズを的確に把握していると評価されており、今後は本DEPsの実施推進及び策定制度の定着を図ることが求められている。そのためには、教育行政を効率的に運営するためにも中央・地方の教育行政官及び教育行政組織の能力向上及び、国家レベルの地方教育支援計画を策定し、DEPsの策定・実施を支援・促進する必要があるところ、「全国スクールマッピング・マイクロプランニング」の後継案件として、本案件が要請された。</p> <p>(2) 国家開発計画、地域開発計画、分野別計画などの計画と当該案件の整合性</p> <p>マラウイ国貧困削減戦略ペーパー（MPRSP）上、教育の充実の重要性が指摘されている。また、MPRSPの下に位置する教育セクタープログラムであるPIFには、教育の質の向上、及び地方分権化の促進が重要課題として挙げられている。</p> <p>(3) 他国機関との関連事業との整合性</p> <p>DFID、USAID、CIDA、GTZ、世界銀行等多くのドナーが、校舎建設、教科書の配布、教育の基礎データ整備、スクールマッピングの実施、教員養成・トレーニング等様々な分野で支援を行っている。これら支援は前述のPIFに沿って行われているが、当事業団のDEPsの作成・実施支援もPIFとの整合性を保ちつつ行うこととなる。また、パイロットプロジェクトでは、実際に校舎施設の整備、教員のトレーニング、学校運営能力の改善等、多ドナーの活動と類した支援を行うこととなるが、パイロットプロジェクト対象県を他ドナーと連える、若しくは、対象県が同じでも、対象プロジェクトを注意深く選定することにより、他ドナーとの重複を避け、補完関係を保ちつつ、相乗効果が得られることを目指す。</p> <p>(4) 我が国の当該への基本的援助方策との整合性</p> <p>2002年6月のカナナスキスG8サミットにおいて、アフリカへの基礎教育支援が重視されている。また、人的資源開発支援は2002年9月のヨハネスブルグサミットにおいても重点分野とされており、我が国としても、今後5年間に教育分野に2,500億円の援助を行うことを表明している。さらに、JICA国別事業実施計画上も、教育分野を重点分野として挙げている。</p>
3. 事業の目的	本調査は、教育の質及びアクセスの改善を図るために、DEPsに基づいた全国地方教育支援計画の策定及びパイロットプロジェクトの実施により、中央及び地方の教育行政組織・行政官の能力向上及びDEPsの実施促進を目的とする。
4. 事業の内容	<p>(1) 対象</p> <p>(a) 調査対象： マラウイ全国33県（パイロットプロジェクトについてはNkhata Bay、Mchinji、Ntchisi、Machinga、Thyolo、Nsanjeの6県を対象とする。ただし、Nkhata BayとMchinjiについては、DEPsの内容を包括的に実施するため、他の4県に比べ資金を傾斜的に投下する。他の4県については、各県においてDEPsの内容の一部を実施することで、低コストでの教育の質改善を追及する。）</p> <p>(b) 技術移転の対象：教育科学技術省の中央レベル及び県レベル行政官</p> <p>(2) アウトプット</p> <p>(a) 計画策定：全国地方教育支援計画の策定</p> <p>(b) 技術移転：教育計画策定・実施技術、教育行政サービス提供技術の移転</p>

(3) インプット：以下の投入による調査および技術移転の実施。

(a) コンサルタント (分野/人数)

分 野	人数
総括/教育計画1	1
教育計画2	1
教育行政・マネジメント	1
研修計画・研修教材作成	1
校舎施設整備	1
学校運営/コミュニティ参加	1
教員訓練/人材育成	1
教育カリキュラム/教育手法	1
ジェンダー/社会配慮	1

(4) 総事業費

調査に要す費用：約4.5億円

(5) 調査のスケジュール

2003年1月～2005年2月 (2年2ヶ月)

(6) 実施体制

(a) 協力相手国実施機関名：教育科学技術省

(b) 協力相手国実施機関の責任者：教育科学技術省次官

5. 成果の目標

(1) 提案計画の活用目標

策定された計画が順次実施されること。

目標年：2005年～2008年

(2) 活用による達成目標

以下の目標達成度測定指標の改善

目標達成度測定指標：

上位目標： 初中等教育における中途退学率・落第率、出席率、統一テストの成績、

近接的目標： 机一つ当たりの生徒数、生徒一人当たりノート数、

有資格または訓練済教員一人当たりの生徒数、一教室当たりの生徒数

6. 外部要因リスク

(1) 協力相手国内の事情

(a) 政策的要因：政権交代等による教育政策の変化

(b) 経済的要因：対象校周辺地域の実質所得水準の低下

(c) 社会的要因：食糧危機の悪化、治安の悪化等

(2) 関連プロジェクトの遅れ：

特段なし

7. 今後の評価計画

(1) 事後評価に用いる指標

(a) 活用の進捗度

策定された計画におけるスケジュールとの比較

(b) 活用による達成目標の指標

上位目標： 初中等教育における中途退学率・落第率、出席率、統一テストの成績、

近接的目標： 机一つ当たりの生徒数、生徒一人当たりノート数、

有資格または訓練済教員一人当たりの生徒数、一教室当たりの生徒数

(2) 上記(a)および(b)を評価する方法およびタイミング

カウンターパートからの情報・統計資料 (3年後、および5年後)